

第40回原子力委員会定例会議議事録（案）

1．日 時 2002年10月15日（火）10：30～11：00

2．場 所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室

3．出席者 藤家委員長、木元委員、竹内委員
 内閣府
 永松審議官
 榊原参事官（原子力担当）、渡辺参事官補佐

4．議 題

- （1）市民参加懇談会について
- （2）藤家委員長の海外出張について
- （3）その他

5．配布資料

- 資料1 第6回市民参加懇談会コアメンバー会議の結果について（座長報告）
- 資料2 藤家原子力委員長の海外出張について
- 資料3 第39回原子力委員会定例会議議事録（案）

6．審議事項

- （1）市民参加懇談会について

標記の件について、渡辺参事官補佐より資料1に基づき説明があり、以下のとおり意見交換があった。

（木元委員）別紙1は、市民参加の全体イメージを立体的に示した図である。「市民」の方々はいろいろなご意見をお持ちだと考えるが、それらを具体的にどのように吸収していくのが重要である。そのために「市民との懇談の場」を設ける。ここで示す「市民」には、各団体の代表の方や、立地地域の方たちなど、いろいろな立場の方々が含まれる。この「市民との懇談の場」は、広聴、つまり広く聴くことを第一に考え、その懇談の場に来ていただいて、疑問や考えを表明していただいて意見

交換を行う。その結果を、コアメンバー会議で政策に反映すべき意見について討議する。そして、その結果を原子力委員会に報告・提言するというものである。政策への反映結果は、コアメンバー会議に戻し、さらに「市民との懇談の場」にフィードバックする。また、政策実行の段階でも、パブリック・コメントなどでご意見が出てくると思うので、その段階でもコアメンバー会議で議論していく。そういった仕組みを考えている。

次回の「市民との懇談の場」の開催計画については、当初、テーマを「エネルギー基本法について」とする案もあったが、コアメンバー会議で、市民の皆さんにとって最もホットなものを取り上げるべき、ということで東京電力の件について取り上げることとした。開催日は、なるべく早くやるべきと考えており、11月末までを目途に開催したいと思う。開催場所は、東京都内がふさわしいと考えている。時間は、4時間取っているが、これでも短いかもしれない。懇談会は、2部構成とし、各々2時間ずつとしたい。

「市民との懇談の場」第1部では、パネリストを3名ぐらいお呼びして、ご意見を述べていただく。コアメンバーの代表の方にも壇上でスタンバイしていただき、議論をより深めることができるようにしたい。第2部では、会場の参加者から自由にご発言を求め、ご意見を伺っていききたいと思う。ウエイトは第2部に置くことを考えている。今回「市民との懇談の場」では十分に時間を取りたい。また、できる限りコアメンバーの方々と第1部のパネリストにも参加してもらうつもりである。司会・進行はコアメンバーの中から選び、第1部と第2部で司会を変え、お互い補完し合えるようにすることを考えている。

「7. 報告者」については、私から、これまでの出来事を時系列で第三者の視点で報告するつもりである。このときは、原子力安全・保安院や東京電力の方にも待機していただき、必要に応じ説明を補足していただくことを考えている。

テーマは「原子力の情報」としているが、これは、原子力の情報のあり方はどうあるべきか、情報公開とは何か、といった広がりを持つテーマであり、詳細をさらに検討していきたい。

(竹内委員) 別紙2により、市民参加懇談会の意義や最終的な目標が良く理解できる。

「市民との懇談の場」は、この次で3回目となるが、それぞれテーマを変えながら、さらに実績を積み上げていくことが必要だと思う。

(木元委員) 今回のコアメンバー会議は、いろいろな意見が出て、とても意義深かった。情報伝達の際は、受信側である一般市民の皆さんがどう収集し、分析し、理解するかも問題となる。この点についてまで、今回の懇談の場で取り上げられるかどうか。また、発信側のメディアについても取り上げるかどうか。今回のテーマは「原

子力の情報」としているが、どのような切り口で議論するのかについては引き続き検討することが必要であると考えている。

市民参加懇談会は、これまでいろいろとテーマを変えて開催しているが、1つのテーマだけに狭く絞るのではなく、エネルギーや原子力の全体を包括し、大きなテーマを傘にして進めていきたい。こうした方が物事がよく見えてくる。また、開催の回数を多くこなしていくことも必要だと思う。

(藤家委員長) 世論によって、国の活動はバックアップされたり、ブレーキがかかったりする。原子力も社会との関係が重要であり、この関係はこれからますます深まっていくと思う。

別紙2に「行政システムへの反映」とあるが、具体的にはどのようなことをお考えか。

(木元委員) これは、討議の対象であって、具体的にどうする、ということではない。例えば、原子力安全・保安院を経済産業省から分離してほしい、原子力委員会の体制はどうか、原子力委員会をさらに強化すべきかどうか、といった声がある。それらを吸い上げていかなければ、問題は見えてこない。我々と関係ないとするのではなく、すべてオープンに取り上げるべきだと思う。「なぜそのようにお考えなのか」、「それは発展的な考え方なのか」といったこともコアメンバー会議で議論していきたい。これまでは、「聞いてもらえなかった」という多くの方々の思いがいろいろな問題の根底にあったと思う。

(藤家委員長) 開催日はいつ頃決まりそうか。

(木元委員) 会場についても、いろいろなご注文があり、現在探しているところである。例えば、参加者の皆さんからご意見を伺うときは、階段状になっている会場が良い、といったご意見がある。さらに、コストについての問題もある。

(藤家委員長) 市民参加懇談会への期待は非常に大きいので、引き続きよろしくお願いしたい。

(2) 藤家委員長の海外出張について

標記の件について、榊原参事官より資料2に基づき説明があり、以下のとおり発言があった。

(藤家委員長) 韓国で開催された前回のPBN C(環太平洋原子力会議)では、J C

〇の臨界事故が話題になったが、今回は、東京電力の件が一番の関心事になると思う。この件も含めて、我が国の現状を話したいと考えている。また、いろいろな方と意見交換をする予定である。中国は、まさにエネルギー・ジャイアンツになりつつあり、精力的に原子力に取り組んでいるところである。深センの近くに原子力発電所があり、そこも視察する。

（３）その他

- ・事務局作成の資料３の第３９回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
- ・事務局より、１０月２２日（火）に次回定例会議が開催される旨、発言があった。